

第3回ワークショップ実施報告書

市川市公共施設に関する市民ワークショップ

いっしょに考えよう！ 市川市の公共施設

- ◆開催日時 平成27年11月29日（日）午前10時～12時
- ◆参加者 20名
- ◆ファシリテーター 芝浦工業大学 工学部建築学科 志村 秀明 教授
- ◆第2回テーマ **「市川市らしい公共施設のあり方を考えよう！」**

第3回目（最終回）は、これまでの意見や発表を踏まえて、市川市の公共施設全体を表す「キャッチコピー」「キーワード」と、キャッチコピーを実現するために「自分たちができること」をグループごとに意見交換及び発表を行ないました。

「キャッチコピー」については、市川市の持つ自然や歴史文化を活かしつつ、若い世代や新しい住民との融合、調和（シンフォニー）を重視し、子どもからお年寄りまで、多世代が安心して利用できる地域交流の場を表現したものが多く挙げられました。

また、「キーワード」については、災害や防犯等の危機意識の高まりを表す「安全・安心」、人との関係性を表す「信頼・調和・助け合い・コミュニティ」、施設のあり方に関する「統廃合・複合化」、市の資源、魅力を表す「環境・自然・文化」など、多様な視点からキーワードが挙げられました。

最後に、自分たちができることとして、自らがまず「知る」ことからはじめ、「積極的に地域活動に参加し、情報を発信し、地域の人々を巻き込むこと」、今回のワークショップをきっかけに「ずっと関心を持ち続けること」といった積極的な意見が出されました。

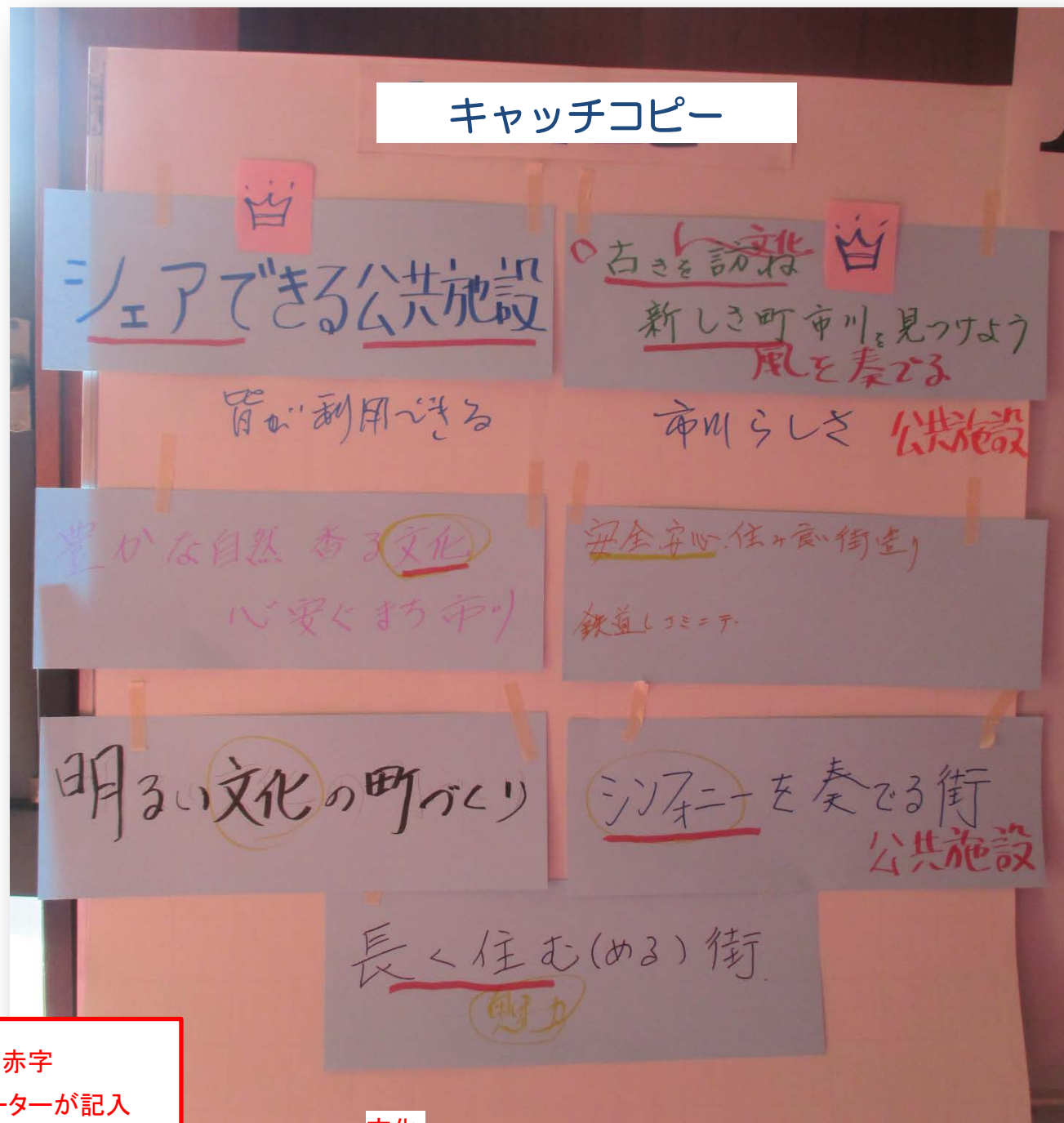
厳しい現状の中でも、地域の課題解決に向けて市民自らも考えていくということが共有されました。



グループワークの様子



グループ発表の様子

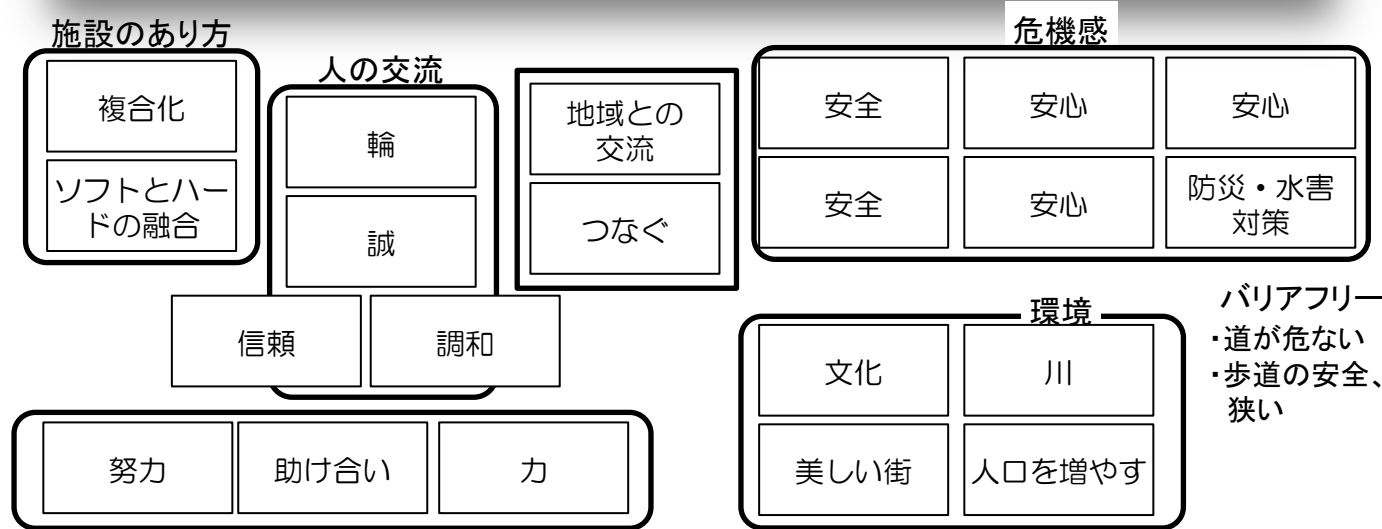


—, 赤字
はファシリテーターが記入

<p><u>シェアできる公共施設</u></p> <p>安全・安心・住み良い街づくり 鉄道・コミュニティ</p>	<p><u>古きを訪ね</u>、<u>新しき町市川</u>を見つけよう <u>風を奏でる公共施設</u></p> <p>安全安心 住み良い街づくり 鉄道・コミュニティ</p>	<p>豊かな自然香る<u>文化</u> 心安らぐまち市川</p> <p>安全安心 住み良い街づくり 鉄道・コミュニティ</p>
<p><u>長く住む(める)街</u></p>	<p>明るい文化の町づくり</p>	<p><u>シンフォニーを奏でる街</u> <u>公共施設</u></p>

発表

- 古い寺や神社があり、文人もたくさん住んだ町なので、その古さを残しつつ若い世代の方達が新しい町を見つめ、調和を奏でていけば楽しい明るい文化の町になり、長く住める町になるのではという思いです。
- 「シェアできる公共施設」の意味として、ひとつは安全安心で住み良い施設をみんなでシェアすること、建物の複合化をハード面として整備することで、いろいろな人の目が集まり安全安心につながるという意味です。もうひとつは、民間のサービスや資金を活用して施設を長く使っていくという、官と民でシェアするという意味です。



発表

- 施設のあり方として「複合化」と、物の使い道をどのようにしていくのかということ、震災などの「危機感」、その他「バリアフリー」など、「安全安心」というキーワードが出ました。
- また、「信頼」「輪」「調和」は、人との信頼関係や、地域性の「調和」を表しています。
- 「環境」としては「川」や「文化」、特に市川の名物である江戸川をうまく活かしていけると良いという意味です。
- 「努力」「助け合い」「力」は、みんなで力を合わせてやっていくことを意味します。

キーワード

キャッチコピー

公共施設

歴史と文化と現代の調和のとれた街が

持続可能な社会 市川

海と川のある町 市川

次世代へ みんなの市川大切に

おだやかな町 親切な人々 安心な暮らし 市川

赤ちゃんからおじいちゃんおばあちゃんまで安心して利用の出来る施設に!

つながり、出会いからフレキシブルな交流の輪 松と梨の市川

市民とつくる 市民を育む 市川市 公共施設

みんなで作る安全安心笑顔 公共施設

みんなの輪をつなぐ公共施設

赤字はファシリテーターが記入

歴史と文化と現代の調和のとれた街	持続可能な社会 市川	海と川のある町 市川
次世代へ みんなの市川大切に	おだやかな町、親切な人々 安心な暮らし 市川	赤ちゃんからおじいちゃんおばあちゃんまで安心して利用の出来る施設に!
つながり 出会いからフレキシブルな交流の輪 松と梨の市川	市民とつくるが育む 市民を育む 市川市 公共施設	みんなで作る安全 安心 笑顔 みんなの輪をつなぐ公共施設

発表

- ・キャッチコピーとしては市全体のことと公共施設に関わること2つに分かれます。
- ・全体としては市川市民として誇りに思い、歴史文化と現代の調和がとれているテーマです。
- ・東京の別荘地として文人が多く住みついていたということ、東京近郊で近代的な施設もあるという市川の誇りをを出していきたいと思えます。
- ・狭いけど海があるという環境で、市川市はいい町と思うが、もっと良くして若い人が住み子育てできる環境でないといけない。
- ・歴史文化、海から川まであり、赤ちゃんから高齢者まで安心して利用できる施設が必要です。

好奇心 学習 環境 ミニ開発

人 みんな LOVE

連帯 コミュニティ 老人の安心・安全 地域の人との関わり 子供の安全・平和

多様性交流

元気を作る 育成 高年齢者の活用 有料ボランティア

複合化

リース ビルド アンド スクラップ

3C

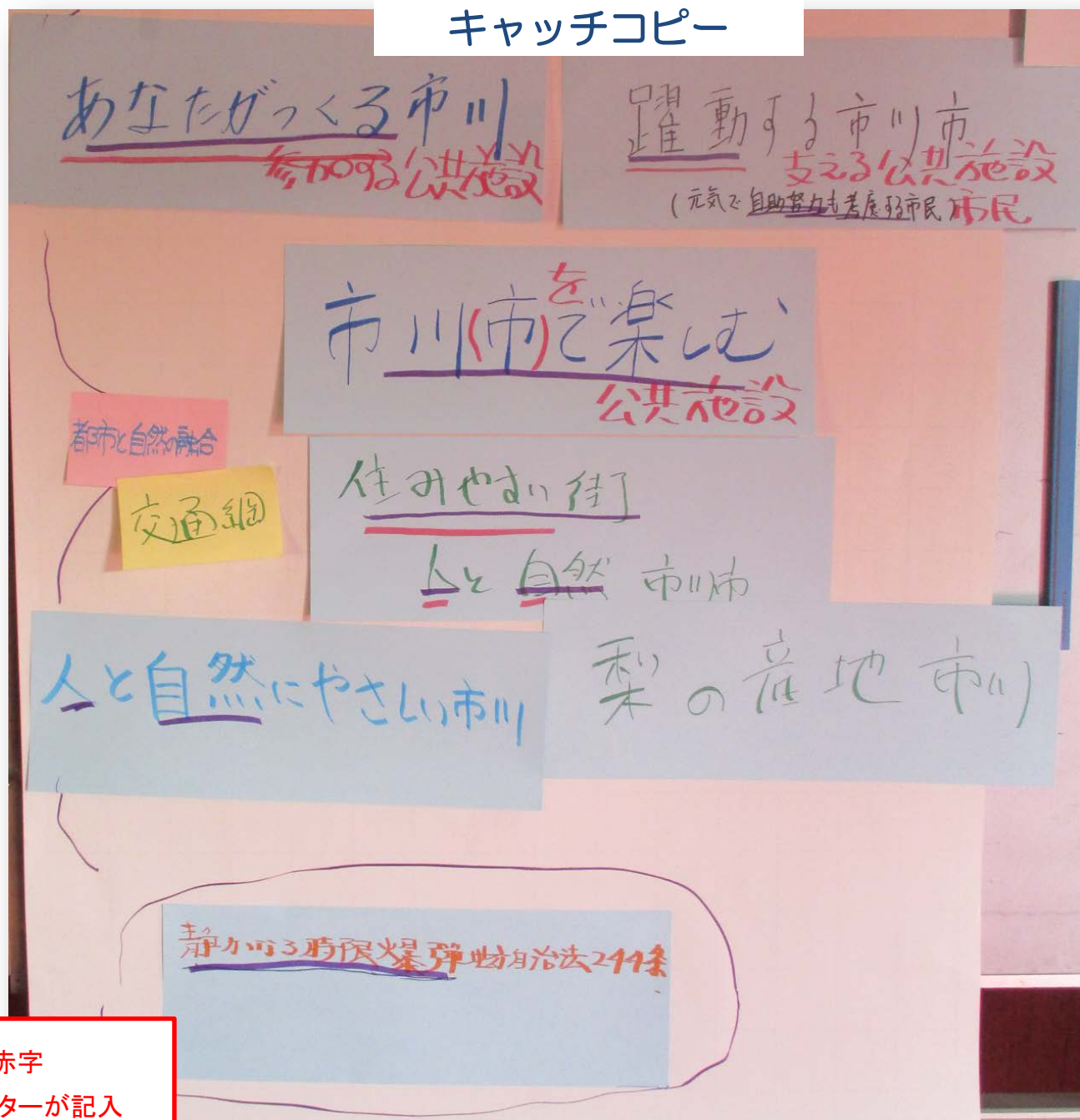
学習	環境	ミニ開発
好奇心		
ひとりひとりでできることを見つける	元気を作る	育成
主体	高年齢者の活用 有料ボランティア	
チャレンジ	チェンジ	クリエート

人	みんな	LOVE
連帯	老人の安心・安全	地域の人との関わり
コミュニティ		子供の安全・平和
	多様性	交流

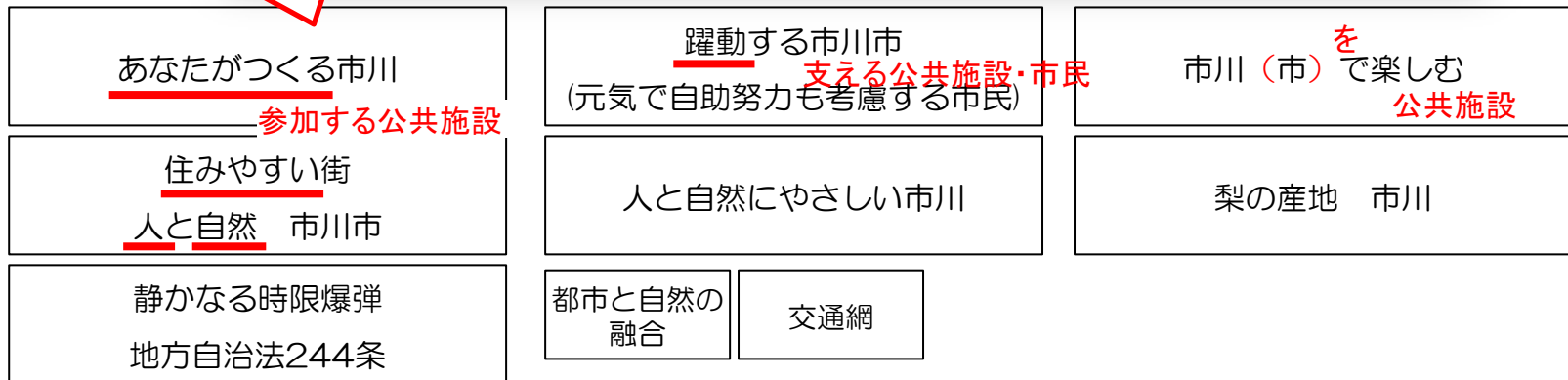
発表

- ・市川は施設数が多いが、まとまっていないので複合化が必要です。
- ・地域ごとに土の香りがする言葉で表現する事が求められています。その言葉にブランドがあると思います。市川は宿場町と梨があります。
- ・高齢者と若者の接点がないので、複合化が求められ、それにより出会いが生まれ、やさしい市になるのではないかと思います。

キャッチコピー



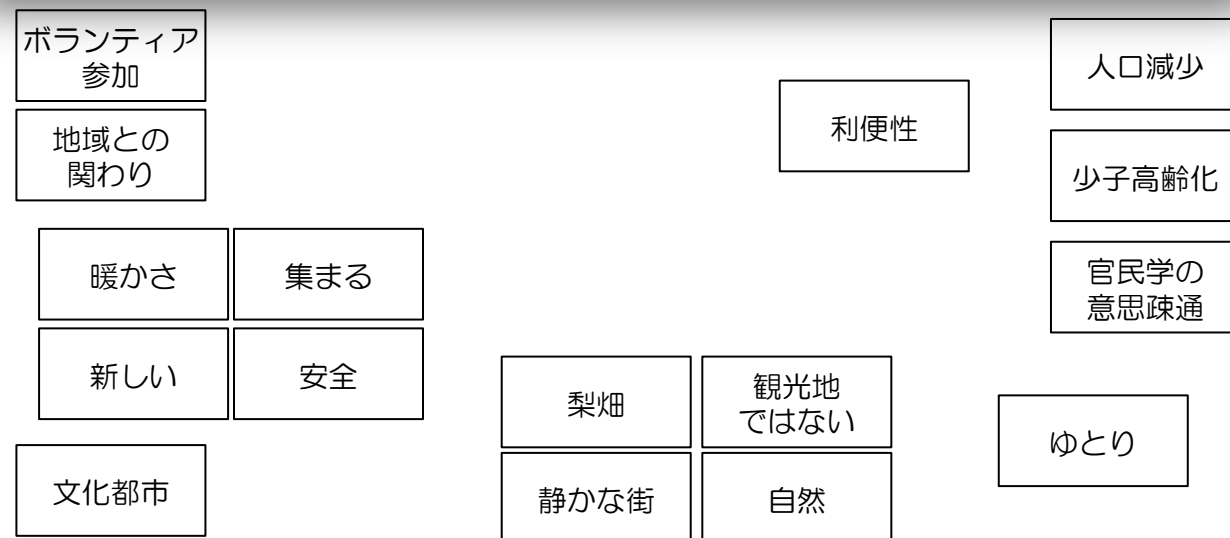
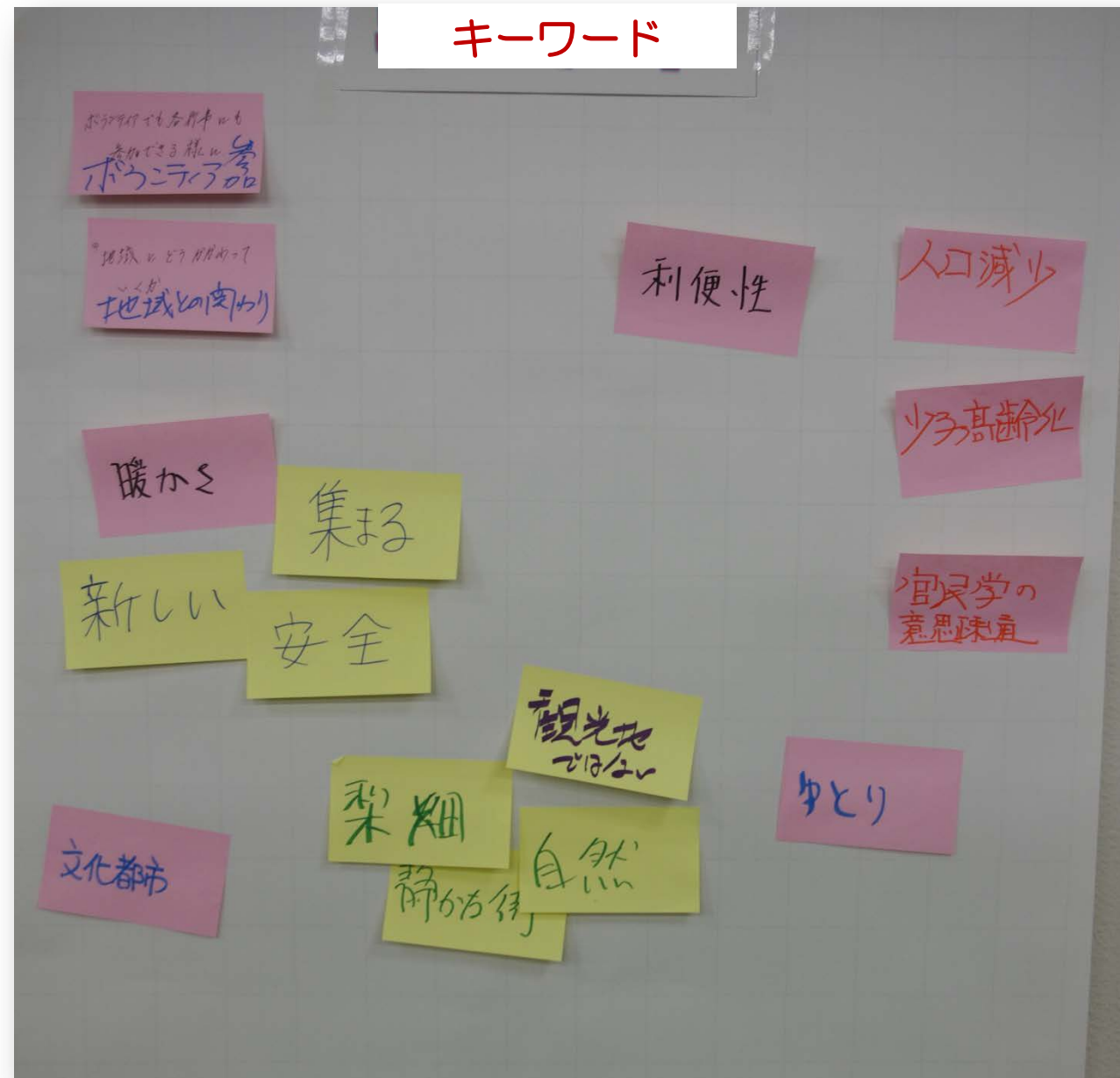
—, 赤字
はファシリテーターが記入



発表

- 市川は自然があるまちと、もう一つは東京に近い都市型のまちの2つに分かれます。
- 自然も豊かに使えるようなことができれば良いと思う一方で、高齢化と人が減るといった課題も抱えています。
- ボランティア関係や地域の行事、また子どもや高齢者が集えるサロンに参加するなど、自分たちが参加することが非常に重要で、周りを巻き込んで何でも皆でやってみることが大事です。

キーワード



発表

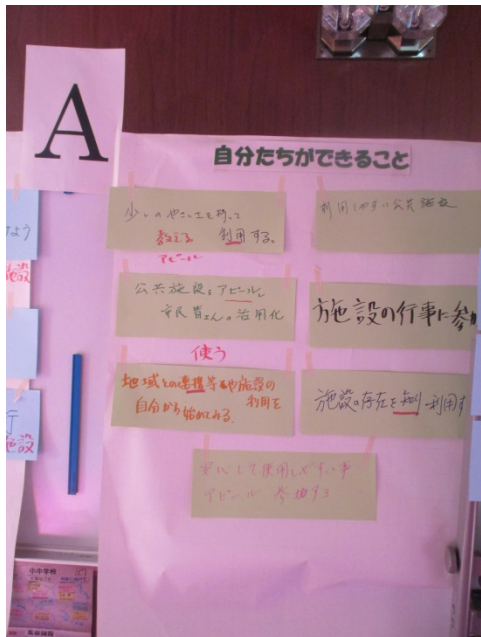
- キーワードとしては「地域との関わり」として「ボランティアに参加」すること。
- 観光も多少は意識しなければならない。
- 文化の都市、都市化の進んだ町という魅力がある。
- 大町の梨畑をアピールして、山梨のように観光の場として工夫も考えたい。
- 市の縦関係ではなく、横関係として市民と一緒にまちづくりに関わることが必要。
- これから15年、20年、全国で公共施設の課題に取り組んでいるので、行政も頑張ってほしい。

キャッチコピー・キーワード

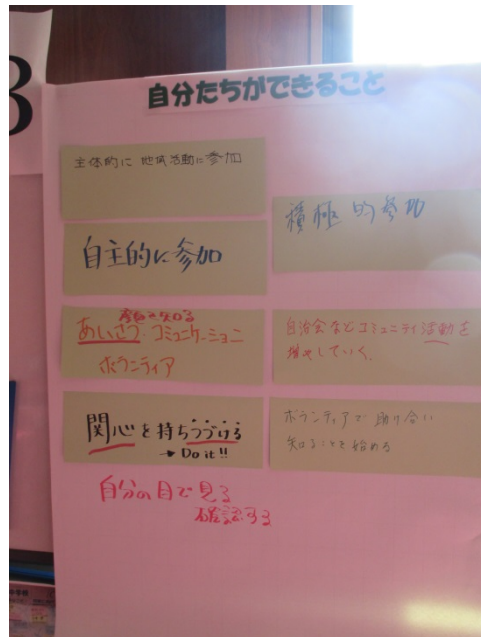
	Aグループ	Bグループ	Cグループ	意見交換	ファシリテーターコメント
キャッチ コピー	<ul style="list-style-type: none"> 様々な意見が出されました。 古い寺や神社、文人もたくさん住んだ町、その古さを残して、若い世代新しい人が調和を奏でていけば楽しい明るい文化の町になって、長く住める町になるのではという思いです。 今の意見は市川市全体のキャッチコピーですが、補足として「シェアできる公共施設」を挙げました。この意味として、ひとつは安全安心で住み良い施設をみんなでシェアすること、建物の複合化をハード面として整備することで、いろんな人の目が集まり安全安心につながるという意味です。もうひとつは、民間のサービスや資金を活用して施設を長く使っていくという、官と民でシェアするという意味です。 	<ul style="list-style-type: none"> キャッチコピーとしては市川全体のこと、公共施設に関わること2つに分かれます。 全体としては市川市民として、市川を誇りに思って、これからこうありたいということを含めて、歴史と文化と現代の調和がとれているというテーマを入れました。 東京近郊にあって、貝塚があり数千年前から人が住みついていた町ということ、東京近郊で近代的な施設もあるということです。こういう市川の誇りを出していきたいと思えます。 以前住んでいた川崎は、多摩川があって市川と似ています。狭いけど海があるという良い環境ですが、もっと住みよくすること、若者も住まないと人口が増えません。若い人が子育てできないといけません。 「歴史文化、海から川まで、赤ちゃんからおじいちゃん、おばあちゃんまで安心して利用できる施設」だと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 市川はどういう所かを考えると、大町みたいに自然があるまちと、もう一つは東京に近い都市型のまちの大きく2つに分かれると思います。 両方を一緒にやっっていこうと思うと、なかなか難しいのではないかと、それにはどうしたら良いかということ、自分たちが市川で何ができるかみんなで作っっていこうじゃないかということと、参加することが大事だと考えました。 一方で、高齢化で人が減るという課題も抱えています。 参加して周りを巻き込んでいくこと、何でも皆さんでやってみることが大事。ボランティア関係や地域の行事、また、子どもや高齢者が集えるサロンなど、できるだけ参加して、それによって自然も豊かに使えれば良いと思います。 自分たちで参加してまちを作っていく、周りの人たちを巻き込んでやっっていくというのが一つの大きなテーマであると思います。 	<p>意見交換</p> <p>A「古き文化を訪ね、新しい風を奏でる公共施設」</p> <ul style="list-style-type: none"> 風は新風、若者といった意味で、「シンフォニー」でもいいですが、「奏でる」の方が調和の意味があると思います。 <p>B「市川市民が育む公共施設」</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般的ですが、市川の交易と川の歴史も表しています。 <p>C「市川市で楽しめる公共施設」</p> <ul style="list-style-type: none"> 市川市に来てもらうという意味でしようか。市川市の魅力に来てもらうということでしょうか。地元も他も両方という意味で。 <p>「市川を楽しむ公共施設」 「エンジョイ市川」 参加してみんなで工夫して考えることを楽しむということ。</p> <p>「躍動する市川市、支える公共施設」 「躍動する公共施設、支える市民」</p> <ul style="list-style-type: none"> 何か外部に対する言葉のインパクトが必要かと思います。 <p>B「みんなでつくる安全安心笑顔、躍動する市川市」 「みんなの輪をつなぐ公共施設」</p> <ul style="list-style-type: none"> 市川市の方言があれば方言で言い換えると良いと思います。 	<p>ファシリテーターコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 今、公共施設再編は全国で検討されていますが、まだ始まったばかりですので、どのように再編していくかという方針の言葉は出来上がっておらずこれからです。 キャッチコピーは、公共施設を今後どうしていくかを表すものなので、最後に「公共施設」を入れて検証してみましよう。 言葉を工夫して、よりよいキャッチコピーを考えてみましょう。 <p>・「古き文化を訪ね、新しい風を奏でる公共施設」 「シンフォニーを奏でる公共施設」 「あなたが参加する公共施設」</p> <p>前者はどちらかというとし川らしさをベースにした例です。一方で後者は一般的な表現ですが重要なことです。</p>
キー ワード	<ul style="list-style-type: none"> キーワードでは、施設のあり方として「複合化」、物の使い道、震災などの「危機感」、「バリアフリー」などの「安全安心」、また、「信頼」「輪」「調和」は、人との信頼関係や、地域性の「調和」を表しています。 「環境」としては「川」や「文化」、特に市川の名物である江戸川をうまく活かしていけると良いです。 「努力」「助け合い」「力」は、みなで力を合わせてやっっていくということです 	<ul style="list-style-type: none"> 市川は施設数が多いがまとまっていません。複合化が必要です。 いろんな地域で、土の香りがする言葉で表現する事が求められていると思います。その言葉にブランドがあり、市川には宿場町と梨がある。 高齢者と若者の接点がないので、複合化が求められ、それにより出会いが生まれ、やさしい市になるのではないかと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> キーワードは、「地域の関わり」として「ボランティアで関わる」こと。 観光も意識しなければならない。 文化の都市、都市化の進んだ町という魅力がある。 大町の梨畑をアピールして、山梨のように観光の場として工夫したい。 市の縦関係ではなく、横関係として市民と一緒にまちづくりに関わる必要がある。 15年、20年、全国で公共施設がどうあるべきかに取り組んでいるので、行政も頑張ってもらいたい。 		

◆キャッチコピーを実現するため「自分たちができること」を考えよう ◆

Aグループ



Bグループ



Cグループ



ファシリテーター
コメント

➢ キャッチコピーと共通する「参加」「巻き込む」「関心を持つ」「アピール」「連携」など、重要なことが出されました。市民の皆様が動けば良い方向の変化につながって行くと思います。

<Aグループ>

まず自分から利用すること、施設が使われることでそこに人が集まり、地域の人との連携が図られることと思います。

<Bグループ>

あいさつが互いにできる状況になるために、自分から行動していくこと、まずは顔を知り、知り合いになることはとても大事なことです。

<Cグループ>

特に集会施設は様々な種類がある中で、実際に利用してみることで、施設の良さや大きな課題などが見えてきて、再編する時にみんなを巻き込んで一緒に考えていくということにつながれると思います。

「公共施設への関心を
継続していく」

まさに市民の皆さんに考え続けていただくというワークショップにふさわしい意見でした。

発表



「地域との連携や設備の利用を自分から始める」

• 複合化により様々な人が集まることで、地域の連携が可能になります。自分から地域との連携や施設利用を積極的に行っていくことが重要と考えました。

発表



「あいさつ・コミュニケーション・ボランティア」

• 私達ができることはあいさつです。コミュニケーションをとり、ボランティアに参加してみるのも自分たちができるとだと考えました。

発表



「たくさん使用し、周りを巻き込む」

• 公共施設はあまり活用したことがなかったので、まず利用してみて、その良さや魅力を近所の人や職場の人などみんなに知らせることが自分達にできるとだと考えました。